

練習問題の解説

10 章 インフレ、デフレ、失業

1. フィリップス曲線および自然失業率仮説に関する記述として妥当なものはどれですか。

- (1) フィリップス曲線は、名目賃金上昇率と失業率との間の正の相関関係を示す右上がりの曲線をいい、1970年代のアメリカ経済におけるスタグフレーションの生成を検証したものである。
- (2) フィリップス曲線は、期待インフレ率の大きさに依存しており、期待インフレ率が上昇した場合、上方シフトする。
- (3) 自然失業率は、有効需要の減少によって、完全雇用が成立していない場合に存在する失業率をいい、全労働者に占める現行の市場賃金で働く意思がありながらも職を見つけることのできない失業者の割合である。
- (4) 自然失業率仮説によると、政府が総需要拡大策をとった場合、企業や労働者は、現実の物価上昇率と期待物価上昇率との乖離を正しく認識できるため、短期的に失業率を下げることはできない。
- (5) 自然失業率仮説によると、長期的には、フィリップス曲線が垂直になるため、金融政策や財政政策によって、失業率を自然失業率より下げることができる。

[地方上級：平成16年度]

解答:(2)

【解説】

- (1) ×。A. W.フィリップスによるもともとのフィリップス曲線は名目賃金上昇率と失業率との間の負の相関関係を示す右下がりの曲線でした。そして、P. A.サミュエルソンとR. M.ソローにより一般的になった物価版フィリップス曲線は1970年代のスタグフレーションを説明できないと考えられました。
- (2) ○。M. フリードマンの自然失業率仮説では、期待で修正されたフィリップス曲線は期待に応じてシフトする短期フィリップス曲線と、期待が現実には調整される長期における、自然失業率で垂直な長期フィリップス曲線とで構成されています。
- (3) ×。自然失業率はインフレやデフレを加速させずに物価の安定と両立する失業率です。労働市場の有効性、競争環境の程度などの制度的、実質的諸要因に依存しています。最近ではNAIRU、インフレ非加速的失業率とも呼ばれています。
- (4) ×。政府の総需要拡大策が予期されなければ、企業や労働者の抱く期待物価上昇率あるいは期待インフレ率は現実の物価上昇率と乖離し、短期的に失業率を下げると考えられます。
- (5) ×。貨幣錯覚が存在せず、人々の期待と現実とが一致する長期では、裁量的な財政金融政策は自然失業率を超えて失業率を下げることはできないと考えられます。

2. インフレーションに関する記述として、妥当なものは次のうちどれですか。

- (1) 生産投入価格の上昇が原因で発生する物価水準上昇を、デマンドプル・インフレーションと呼ぶ。
- (2) 物価水準が、緩やかで持続的な上昇を続けるとき、ハイパー・インフレーションと呼ぶ。
- (3) 総需要が総供給を上回ることにより発生する物価水準上昇を、デマンドプル・インフレーションと呼ぶ。

(4) 中央銀行が、大量に公債を引き受けたことによる物価水準上昇を、クリーピング・インフレーションと呼ぶ。

[ERE 第1回 2002]

解答:(3)

【解説】

- (1) ×。正しくはコストプッシュ・インフレーションです。ダイヤモンドプル・インフレーションは総需要が総供給を上回ることにより発生する物価水準の上昇です。
- (2) ×。緩やかに進むインフレーションはクリーピング・インフレーション。年率数%で進みます。年率数十%で進行するインフレーションはギャロッピング・インフレーションと呼ばれます。ハイパー・インフレーションはさらに高率で、近年では 2008 年のジンバブエが年率 2 億%のハイパー・インフレーションを経験しています。
- (3) ○。
- (4) ×。クリーピング・インフレーションは年率数%で進む緩やかなインフレーションですし、その原因が中央銀行による大量の公債引き受けとは特定されていません。

3. デフレーションに関して誤っている記述は次のうちどれですか。

- (1) 名目利子率が非常に低い状態で、人々が将来もデフレが続くと予想すると、実質利子率は上昇する。
- (2) 債権・債務契約が名目値で固定されている場合には、デフレの下で債権者から債務者への実質的な資産の再配分が起こる。
- (3) ピグー効果（実質残高効果）が存在する場合には、一般物価水準が下落すると、家計の保有する実質残高が増大することによって消費が増加する。
- (4) 自然失業率仮説によれば、予想されたデフレは失業率を上昇させない。

[ERE 第2回 2002]

解答:誤っているのは(2)

【解説】

- (1) 正しい。フィッシャー方程式によれば、 $\text{実質利子率} = \text{名目利子率} - \text{期待インフレ率}$ ですから、期待インフレ率がマイナス、つまりデフレが期待されるとなると、実質利子率は名目利子率を上回ることになります。たとえば名目利子率が 0%で、人々が-3%のインフレ、つまり 3%のデフレを予想するならば、実質利子率は+3%となってしまいます。
- (2) 誤り。デフレ下では貨幣価値が増加するので、上記とは反対に、債務者から債権者への実質的な資産の再配分が起こります。
- (3) 正しい。総需要曲線は一般的に右下がりです。つまり物価水準が低下すると総需要が拡大します。ピグー効果は、総需要曲線を右下がりとする、ひとつの要因です。
- (4) 正しい。デフレであろうと、インフレであろうと、それが正しく予想される限りは現実の失業

率が自然失業率から乖離することはないと考えられます。

4. オークンの法則に関する次の記述のうち、誤っているものはどれですか。

- (1) 一定の GDP の変動の下では、失業率の変動が小さいほど、オークン係数は大きくなる。
- (2) オークン係数が小さいほど、失業率のわずかな改善によって GDP は大きく改善する。
- (3) 現実の失業率が自然失業率に等しいときは、インフレギャップ (GDP ギャップ) は生じない。
- (4) 失業率とインフレギャップ (GDP ギャップ) との間には負の相関がある。

[ERE 第3回 2003]

解答:誤っているのは(2)

【解説】

まず、オークンあるいはオーカンの法則は次の式で表されます。教科書 149 ページを参照してください。

$$Y - Y_f = -a(u - u_n)$$

ここで、 Y は実質 GDP、 Y_f は完全雇用実質 GDP、 u は失業率、 u_n は自然失業率、そして a がオークン係数で、 $a > 0$ です。失業率が自然失業率を下回るときは、 Y は完全雇用実質 GDP を上回り、 $Y - Y_f > 0$ になります。反対に、失業率が自然失業率を上回るときは、 Y は完全雇用実質 GDP を下回り、 $Y - Y_f < 0$ になります。

(1)(2)(3)(4)の設問それぞれを上記式に当てはめてみてください。

(1) 正しい。上記式で GDP の変動、 $Y - Y_f$ を一定としましょう。すると、 $u - u_n$ 、つまり失業率の変動が小さいほど、 a は大きくなる必要が生じます。

(2) 誤り。上記式から a が小さければ、失業率が改善しても、GDP の改善はわずかになってしまいます。

(3) 正しい。上記式から、 $u - u_n = 0$ ならば、 $Y - Y_f = 0$ となります。したがって、現実の失業率が自然失業率に等しいときに、インフレギャップ (GDP ギャップ) あるいはデフレギャップは生じません。

(4) 正しい。上記式から、現実の失業率が高くなるほど、GDP は小さくなり、 $Y - Y_f$ がマイナスに向かい、マイナスの値が大きくなるのが分かります。つまり、失業率が高くなるほどインフレギャップ (GDP ギャップ) は小さくなってしまうため、正の相関関係ではなしに、負の相関関係が見受けられます。

5. フリードマンの自然失業率仮説の下、裁量的な金融政策の有効性に関する記述のうち、誤っているものはどれですか。

- (1) 予想物価上昇率が現実の物価上昇率から乖離している状況では、失業率を低下させることができる。
- (2) 短期的には、非自発的失業を減少させることができる。
- (3) 長期的には、自然失業率を低下させることができる。
- (4) 長期的には、非自発的失業は解消される。

[ERE 第5回 2005]

解答:誤っているのは(3)

【解説】

- (1) 正しい。フリードマンの自然失業率仮説で現実の失業率が自然失業率を超えて低下するのは、予期されない裁量政策が人々に貨幣錯覚を生じさせ、人々の予想（期待）物価上昇率と現実の物価上昇率とが乖離するがゆえです。
- (2) 正しい。貨幣錯覚の生じる短期においてのみ、失業率は自然失業率を下回ることが可能になり、非自発的失業率の減少も可能になります。
- (3) 誤り。貨幣錯覚の生じない長期では、失業率は自然失業率と一致するため、自然失業率を下回ることはありません。その意味では誤りです。ただし、自然失業率自体は固定的な数値ではなく、職業間の移動、非労働力人口から雇用者への移動、失業者から雇用者への移動に伴うさまざまな摩擦を軽減することで、自然失業率自体を下げることは可能です。まぎらわしい問題ですね。
- (4) 正しい。自然失業率は摩擦的失業や構造的失業を含む概念であって、非自発的失業は含んでいません。つまり経済が自然失業率にあるとき、非自発的失業は存在しないことになります。